浦添大公園南エントランス管理事務所（仮称）設計競技

仲間地区の中でももっとも浦添グスクに寄り添う位置にある計画地は、
彼の地を心の拠り所とする地域住民や、県内外から歴史学習や散策に訪れる人々にとって重要な場となります。
そこで私たちは、伝統的な意匠形態や地域素材を用いて、英祖王による中山統治時代のスケール感を引継ぐ、
浦添グスクの玄関口としての施設を提案します。

北側宿道からの外観イメージ

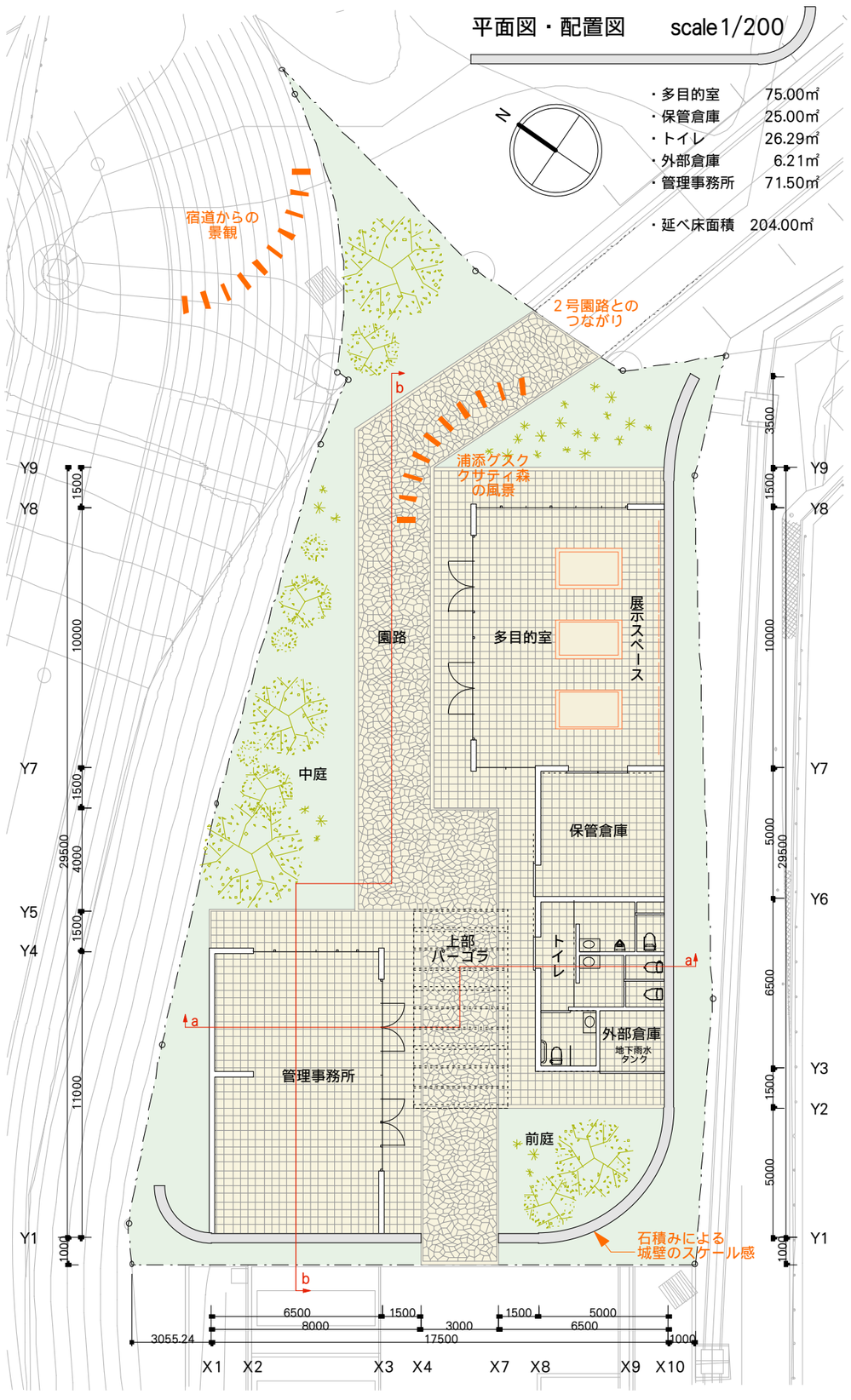
＊浦添グスクの玄関口として

復元が進められている浦添グスクに寄り添う施設として、歴史や伝統と重ね合わさり、溶け込まなければなりません。私たちの提案は分節された瓦屋根の施設配置、グスクの城壁と共鳴する石積みの内外壁、宿道を引継ぐ園路の石畳など、伝統的な意匠形態や地域素材を多用した施設とします。施設を巡る緩やかな曲線の石積みは浦添グスクとその城下町の場の空気の違いを表現しています。

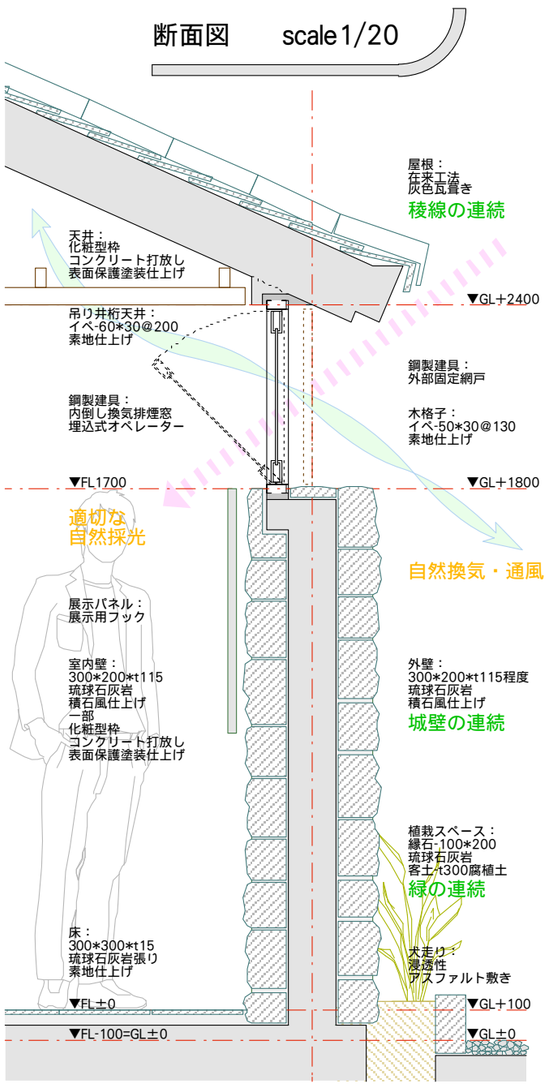
＊施設構成

施設は北東側の浦添グスク、クサティ森に対して開放的な空間とします。また管理事務所と多目的室などを分節して建物のボリュームを抑え浦添グスクの稜線を切断しない配置としました。各棟には寄せ棟の灰色瓦葺きの屋根を掛け、ゆったりとした軒下空間、パーゴラの設置、石畳の園路などによって、場に相応しい甍（いらか）の風景を形成し、周辺の景観との調和を図ります。管理事務所を西側に，多目的棟を東側に配置し、敷地中央、２棟の間を抜く園路が公園へのアプローチとなります。管理事務所は、施設エントランス側によせることで、公園内へのアプローチにも目が行き届きメンテナンス時の動線が容易となります。多目的室はクサティ森の緑を風景としながら，会議や総合学習を行うことができます。トイレは多目的室に隣接させ出入口を一つにまとめることで管理を容易にします。

平面図・配置図　scale 1/200



断面図　scale 1/20



要望に対する提案

（1）景観への配慮

仲間重点地区「水、緑が感じられる　てだこの城下町（グスクまち）づくり」の景観形成基準を遵守し、灰色瓦、琉球石灰岩等を用いて景観への配慮へつとめるとともに、浦添グスクの玄関口として、復元予定の城跡に溶け込むような意匠とします。

（2）公園のシンボルとしての役割

浦添大公園は将来的に浦添グスクが復元され、公園だけでなく歴史の総合学習の場になります。公園のエントランスは浦添グスクの案内板としてシンボル性を持たせます。宿道から望む風景は、石積みと灰色瓦の寄せ棟屋根の連なる甍（いらか）の風景を形成します。

（3）ユニバーサルデザインへの配慮

施設利用者、公園利用者とも使いやすいユニバーサルデザインとします。特に施設出入口のバリアフリー、トイレ利用時の配慮，分かりやすく落ち着いたサインデザインを目指します。

（4）歴史学習ゾーンとしての役割

国指定城跡浦添城跡を中核とした浦添の歴史や文化とふれあえる場として、時間の流れを感じさせる意匠や素材を多用した空間を設え、展示物と合わせて総合学習の場とします。

（5）園路のアプローチ

駐車場から公園内へ迎え入れる石灰岩敷きのアプローチは、敷地東側に設置される２号園路とつながり、メンテナンス時の車両通行を兼ねるような計画とします。

（6）維持管理への配慮

南側道路との高低差を有効活用して設備スペースをまとめ管理を容易にし、景観上目立たないような配慮をします。

（7）安全上への配慮

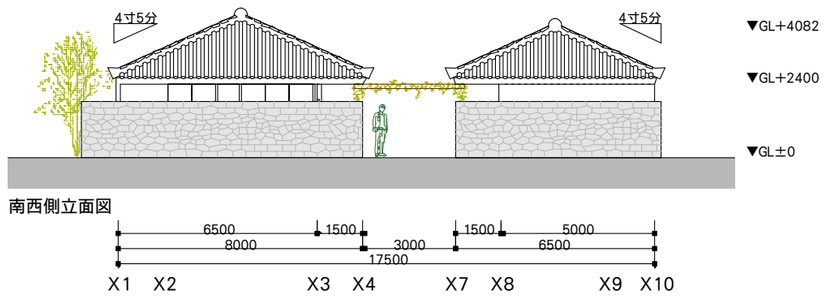
各棟で出入口をまとめ簡潔な施錠計画とし、必要な箇所には防犯性を考慮した格子などを設けます。

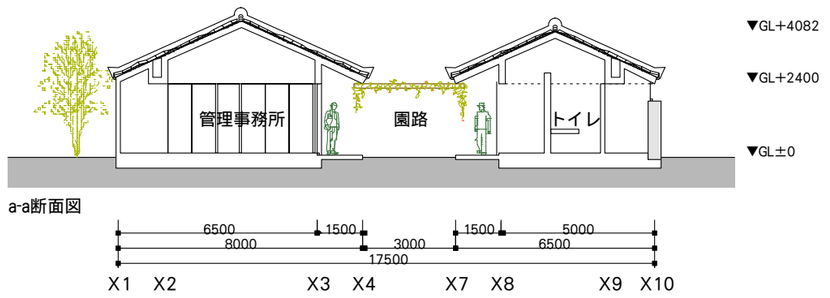
素材の考え方

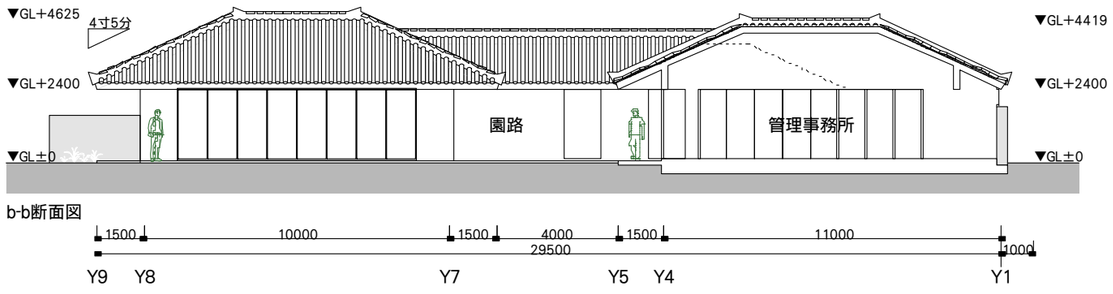
景観形成の観点、環境への配慮などを総合した素材選択をおこないます。

・地域素材であり、落ち着いた色合いの灰色瓦　・浦添グスクからのスケールのつながり　・浸透性を備え、歴史的佇まいのある石畳　・地域資源を生かした通りへの演出

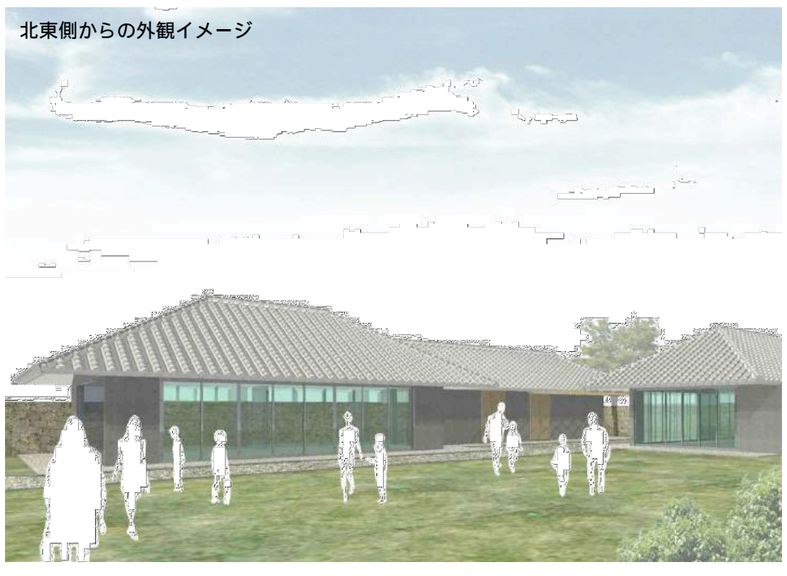
立面図・断面図　scale 1/200



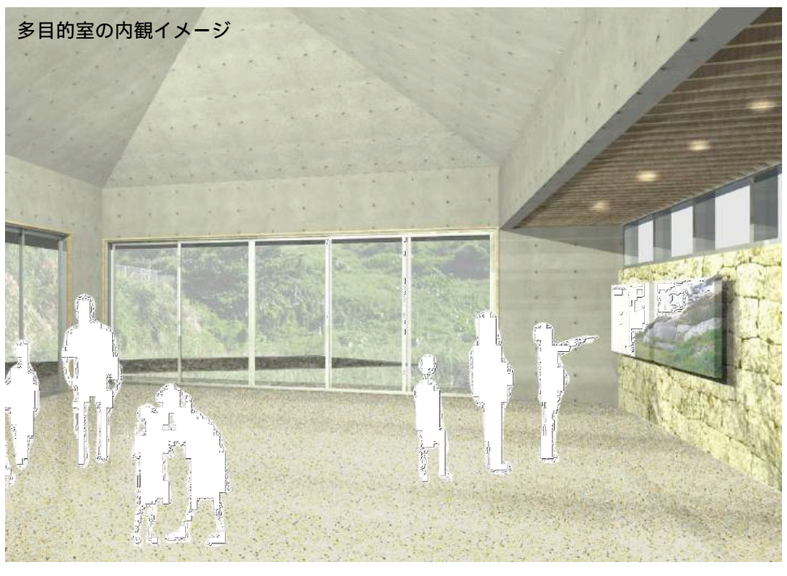




南西側からの外観イメージ



北東側からの外観イメージ



多目的室の内観イメージ